松尾　芭蕉（まつお　ばしょう）

資　　料

色紙帳『蕉門色紙集』

梅の木に　猶やどり木の　むめの花　　はせを

鶯に　薬教ん　声のあや　　其角

うぐいすの　宿とこそ見れ　小擂鉢　　嵐雪

書簡『松倉文左衛門（嵐竹）宛　書簡（元禄六年八月二十八日付）』

さてさて驚入たる事を被仰下

いまだ夢現わかち不申候頃日

さてさて残念愁傷

兎角被仰下候貴面

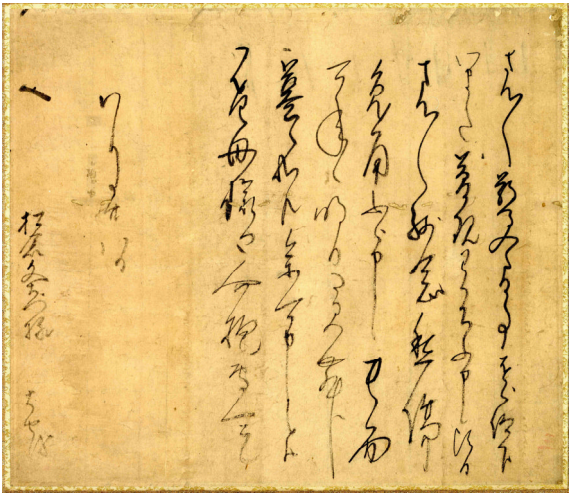
可承候明日御見舞

墓へ成共参可申進候

御老母様御介抱専一ニ候

八月廿八日

松倉文左衛門様　　はせを



©神奈川県立図書館　2010　無断で転載・転用することを禁止します

＊前日に47歳で没した嵐蘭の訃報に接して、弟の松倉文左衛門（嵐竹）へのお見舞いの手紙。母親への気使いが見られる。

＊この書簡は、『芭蕉文集（日本古典文学大系　46）』に飯田九一氏所蔵のもの（口絵写真あり）として掲載されている。

作　　者

1644（正保元）-1694（元禄7）．10．12

伊賀（三重県）生まれ。

伊賀国上野の城代の子藤堂良忠に仕え、ともに北村季吟に貞門派の俳諧を学ぶ。良忠の没後京都に出て俳諧を学び、さらに江戸に出て宗匠となる。深川に芭蕉庵を結び、貞門派や談林派を越えた蕉風を確立する。各地への旅をして紀行文を書き、旅先の大坂で病死する。死後、弟子たちによって著作が刊行される。

参考文献

『芭蕉文集（日本古典文学大系　46）』（杉浦正一郎・宮本三郎・荻野清／校注　岩波書店　1976　［県立　918／9／46（12038550）］）

『校本芭蕉全集（全10）』（阿部喜三男／校訂　角川書店　1962－9　［県立　911．32／31／1－9］）

『芭蕉全図譜（全2）』（芭蕉全図譜刊行会／編集　岩波書店　1993．11　［県立　728．21／18／1・2（20674073・20674081）］）

『芭蕉書簡大成』（今榮藏／著　角川学芸出版　2005．10　［県立　911．32PP／248（21873401）］）

『芭蕉書簡集』（松尾芭蕉／著　萩原恭男／注釈　岩波書店（岩波文庫）　1976．1　［県立　イ911／マ（20622551）］）

『芭蕉講座（全5）』（芭蕉講座編集部／編　有精堂出版　1982．9－85．2　［県立　911．32P／108／1－5］）

「鞋痕と共に遺した俳聖芭蕉の吟と句碑　（附録）「君ヶ崎」について」（飯田九一／著　本目録に収録）

©神奈川県立図書館　2010　無断で転載・転用することを禁止します